

なんでも解説
おのを
深読み



神戸電鉄粟生線の存続のために⑥



神戸電鉄粟生線

「粟生線活性化協議会」新たなスタート

粟生線の利用者増加を目指し、沿線市や兵庫県、沿線住民の代表、神戸電鉄で構成される神戸電鉄粟生線活性化協議会が7月13日にあり、今年度予算などが承認され、新たなスタートを切りました。3月から不在であった会長の選出についても協議し、藪本吉秀三木市長を選出。今後はさらに活発な議論や施策展開が期待できます。

今年度の主な事業の一つとして、「粟生線の利用者数を調査し、どうすれば自家用車から電車利用へ転換できるか」を、4月か

ら新たに協議会のオブザーバーという立場から正式な委員となった兵庫県が中心となり、検討することになっています。その検討を行う場として、6月に、新たに「粟生線活用方策検討委員会」を立ち上げています。

この委員会による検討結果は、来年度以降の協議会の事業に大きく影響するものであり、さらに粟生線の存続に向け、県や沿線各市が、地域の公共交通のあり方を検討するための基礎的なデータになるものと考えています。



北条鉄道

去年は過去最高益に

小野市と加西市を結ぶ、北条鉄道(粟生駅～北条町駅・13.6*_{km})の昨年度の営業収益が、8千万円を超え、1985年の開業以来、過去最高となりました。

北条鉄道は、開業当初8千万円あった営業収益が、2000年代初めには、5千万円台まで落ち込みましたが、鉄道の魅力を着実に発信し、次第に住民の支援の輪が広がり、この度の過去最高益の結果につながりました。

■ 問い合わせ先

交通政策グループ(☎63-1404)